



学校だより

(11月号) 令和3年10月29日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

◎ 夢(ゆめ)にむかって ともに学びあう学校

- ・すすんで勉強する子
- ・自分からあいさつのできる子
- ・仲よくたすけあう子
- ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 やさしい言葉づかいをしよう

横田めぐみさん

～北朝鮮当局による拉致問題について～

校長 白石 徳一郎

ひと雨ごとに秋の深まりを感じる季節となりました。今月は、**昭和52年11月15日**に突然、下校途中に行方不明になった、新潟市の中学1年生だった横田めぐみさんについてお話しします。

ちょうど寒さに向かうこの季節でした。11月15日、お母様はめぐみさんが家の玄関を出る時、めぐみさんのコートを持って、「夕方から寒くなるから、着て行った方がいいんじゃないの?」と声をかけると、「どうしようかなあ・・・今日はいいわ。置いていくわ。」と言って、コートを着ないで登校したそうです。夕方、めぐみさんがバトミントンの部活の練習から帰ってこないの、心配して学校まで探しに行くと、守衛さんが「バトミントン部の生徒たちは6時過ぎくらいにみんな帰りましたよ」とのこと。お母様はびっくりして、めぐみさんを探し回りました。小学3年生だった双子の弟さんたちを連れて海の方へ探しに行った時には、あまりに真つ暗な道に弟さんたちが泣いて怖がったそうです。その後、警察犬やヘリコプターなどを使って新潟県警始まって以来といわれる大捜索が行われましたが、何一つ手がかりがありませんでした。お母様は玄関にかかっている白いコートを見て、「この寒空の下、どこに行ってしまったの?せめてコートを着せてあげればよかった。」と毎日泣いていたそうです。



横田めぐみさん

出典:「新潟日報社・祈り-忘れるな拉致-」

その後、**20年間も何の手がかりもありませんでしたが、ある日、突然、北朝鮮にいるという情報が入りました。**しかし、北朝鮮当局は拉致を認めず、日本政府も拉致の疑いがあるという発表で疑惑としての扱いでした。ご両親様は被害者救出のために一生懸命街頭署名等を続けました。めぐみさんだけでなく他にも大勢の人が拉致されていることにも、ご両親様は心を痛めておられました。さらに5年が経過して、歴史的な日朝首脳会談で金正日総書記が拉致を認め謝罪しましたが、横田めぐみさんは死亡しているという残酷な報告でした。

横田めぐみさんの遺骨として提出された骨はDNA鑑定の結果、他人のものでした。ご両親様は生きてると信じて、その後も一生懸命活動されました。しかし、北朝鮮は再調査を約束はしたものの、未だに誠意ある対応がありません。令和2年6月5日、お父様はめぐみさんとの再会を果たせないまま、ご逝去されました。お父様、そしてご家族の皆様、また、北朝鮮にいるめぐみさんはどれほど無念であるか、胸が痛みます。

昭和52年という、本校が開校した年です。今年度、開校45周年となりますが、めぐみさんが北朝鮮に拉致されて同じ年月が過ぎました。めぐみさんは北朝鮮で生きています。この長い年月を、愛するご両親様や弟さん達と連絡をすることさえできずに過ごされていることを考えると、本当に一日も早い帰国を願わずにはられません。

ご両親様は、これまでに全国でたくさんのご講演をされてきました。さいたま市の子どもたちにもメッセージDVDをいただいています。その中で**お父様が「家の中で家族が一緒に生活するという事は当たり前なことなんですけど、本当はすごく幸せなことなんです。」とおっしゃっています。**北朝鮮にいるめぐみさんを思い、また、天国に召されたお父様を思って、この言葉をかみしめたいと思います。私は小学1年生の時に6年生だっためぐみお姉さんに弟さんたちと一緒に学校に連れていってもらってました。優しいお姉さんでした。毎日、一日も早く帰国できますことをお祈りしております。

最後になりますが、東京都立川市立立川第七中学校でご両親様のご講演を聞いた中学生がめぐみさんの気持ちになって書いた文がありますので、ご紹介します。

現在、北朝鮮に拉致された被害者として17名が認定されていますが、さらに、拉致の可能性が排除できない者として875名(2020年10月現在)がいらっしゃいます。現在、もし、**こういうことが私たちの上に起きたらどうでしょう?皆様もこのことをお子様たちと話し合っていたら、誰もが侵されることのない基本的人権や自由を今もなお奪われ続けている、この重大な人権問題について、さらに関心を深めていただけたらと思います。**(参考文献「めぐみ、お母さんがきつと助けてあげる」横田早

「大切なお父さん お母さんへ」

私は、ずっと後悔しているよ。あの時少しでも時間をずらして歩かせていければ・・・とか

拉致される前に、素敵な思いを出して作っておけば・・・とかかっているよ。

後悔してない大きな事が一つあるんだよ。

それはね、お父さんとお母さんの子どもに生まれ、たくさん笑えたことだよ。

そして海を越え、つらい思いをしながらも、一生懸命私のために、尽くしてくれたことに本当に感謝しているよ。

ありがとう。戻ってくるから、必ず生きて、ずっと待っているからね。

(萩原里香)

出典:『いのちの授業 横田めぐみさんが教えてくれたこと』(いのちのことば社)

